

## 平成21年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病（注意報第7号） ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	やや少 並 多 並 やや多 並 並	やや少 並 多 並 やや多 やや多 やや多
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病（注意報第7号） コナジラミ類	やや多 やや多 やや多	やや多 やや多 やや多
たまねぎ	白色疫病（防除情報第23号） べと病（防除情報第23号） ネギアザミウマ	多 多 並	多 多 並
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病（注意報第7号） アブラムシ類 ハダニ類	やや多 やや多 並 やや少	やや多 やや多 並 並
かんきつ	そうか病  かいよう病  ミカンハダニ	並  少  やや少	並  やや少  やや少
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	並	並
茶	カンザワハダニ	並	並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

麦 類
-----

## 1. うどんこ病

## (1) 予報内容

発生程度 並

## (2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査（大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 3月3半旬の県予察圃場（無防除、諫早市）調査の結果、発生を認めなかった

(発生を認めない)。

## きゅうり

### 1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は1.4%(6.6%)、発生圃場率は16.7%(54.8%)であった。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は9.2%(8.3%)、発生圃場率は58.3%(67.4%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は22.1%(4.1%)、発生圃場率は50.0%(50.0%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると薬剤による防除は困難であるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 病斑は伝染源となるため、発病部や下位の老化葉は取り除きハウス外に持ち出して処分する。

ウ 窒素質肥料の多用を避ける。

エ 高温と多湿が発生を助長するので、換気に注意し、できるだけ室温を30以下に下げる。

### 4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率6.3%)。

### 5. 灰色かび病

平成22年3月12日付病害虫発生予察注意報第7号による。

### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.8%(1.8%)、発生圃場

率は33.3% (30.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。

イ 発生が多くなってからの防除は困難であることに加え、黄化えそ病ウイルスを媒介するため、青色(もしくは黄色)粘着トラップを施設内に設置し、早期発見・早期防除に努める。

ウ 芽に潜り込みやすいので、芽かきした摘葉は残さず集めてビニール袋等に入れ、完全に枯れるまで密封処理するか施設外に持ち出して土中に埋める。

エ 強い薬剤抵抗性を持つことが報告されているので、防除薬剤の選定にあたっては十分留意する。また薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

## 7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は4.3%(2.8%)、発生圃場率は33.3%(29.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去し、環境衛生に努める。

イ 発生が多くなってからの防除は困難であるため、黄色粘着トラップを施設内に設置し、早期発見・早期防除に努める。

ウ 本虫は強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。また薬剤抵抗性対策のため、同一系統の薬剤は連用しない。

# トマト

## 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は1.7%(前年0.8%、前々年1.1%)、発生圃場率は33.3%(前年33.3%、前々年41.7%)であった。

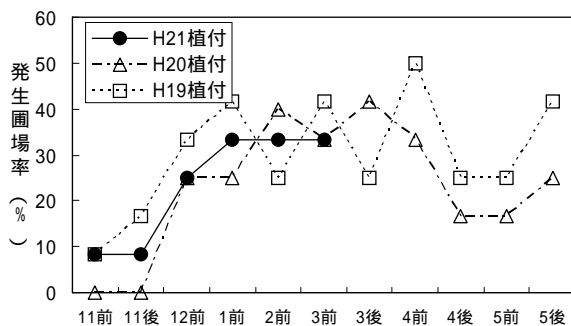


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

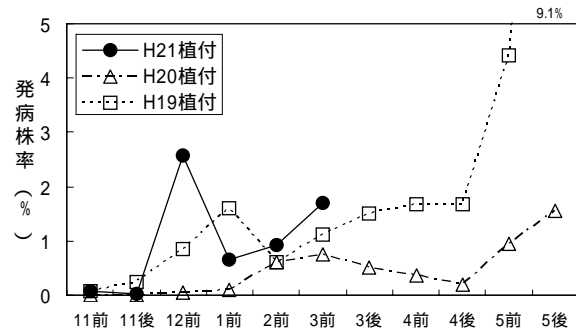


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

病原ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、コナジラミの防除を徹底する。また、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

## 2. 灰色かび病

平成22年3月12日付病害虫発生予察注意報第7号による。

## 3. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は5.0%(0.6%)、発生圃場率は25.0%(15.7%)であった。

イ 向こう一か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

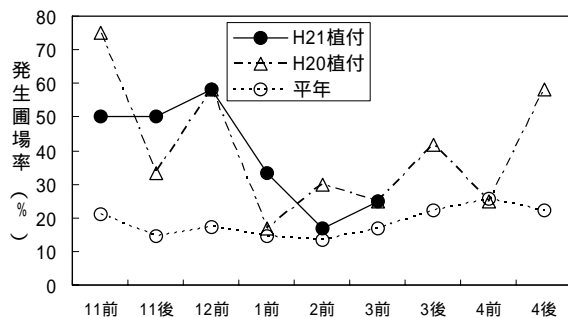


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率の推移

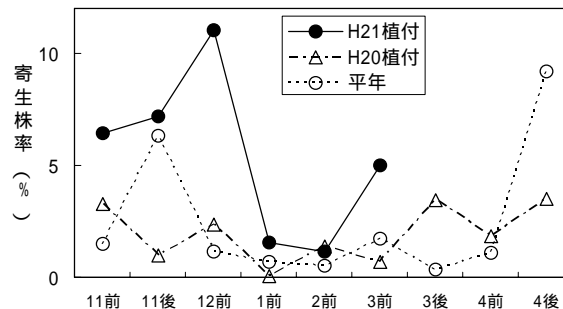


図 トマト コナジラミ類 寄生株率の推移

### (3) 防除上注意すべき事項

ア トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ 黄化葉巻病のまん延を防ぐため、黄色粘着板等でコナジラミの密度を把握し、防除を徹底する。

ウ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

平成22年3月16日付病害虫発生予察防除情報第23号による。

### 2. ベと病

平成22年3月16日付病害虫発生予察防除情報第23号による。

### 3. ネギアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は22.5%(21.5%)、発生圃場率は73.3%(73.3%)であった。

## いちご

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病株率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.7%(5.1%)であった。果実では、発病果率は0.2%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(2.3%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。
- イ 発病葉や発病果実は伝染源となるので、圃場外へ持ち出し、適切に処分する。
- ウ 発生を認めたら治療効果のある薬剤を1週間程度の間隔で散布し、防除を徹底する。
- エ 薬剤は、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。
- オ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

## 2. 灰色かび病

平成22年3月12日付病害虫発生予察注意報第7号による。

## 3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2%(0.9%)、発生圃場率は11.1%(8.9%)であった。

## 4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.6%(4.9%)、発生圃場率は22.2%(35.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり本虫の発生に好適である。

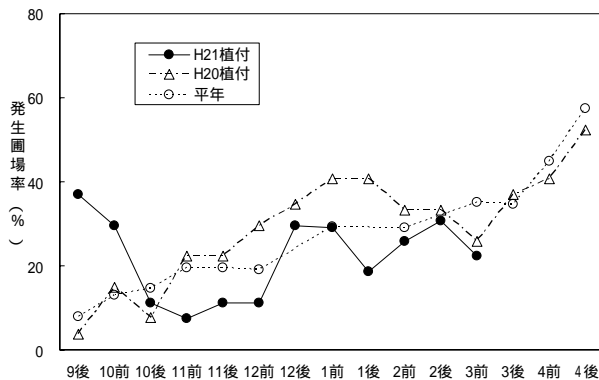


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

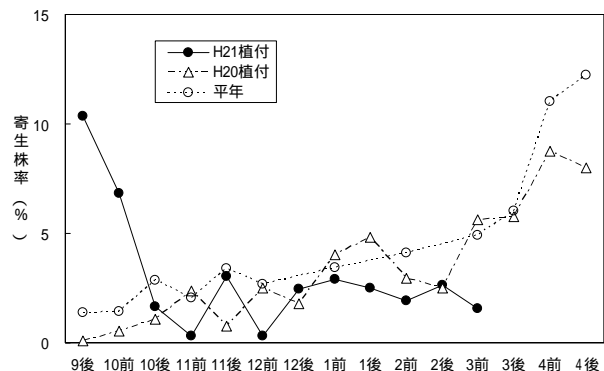


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発生の増加に注意し、発生初期の防除を徹底する。
- イ 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は下葉かき等古葉の整理を行った後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- エ 天敵(チリカブリダニ等)を使用している圃場は、発生状況に応じて天敵に影響のない殺ダニ剤を活用する。天敵の詳しい利用方法については県病害虫防除基準の使用マニュアル等を参考にする。

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.5%)。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.5%)、発生圃場率は2.6%(26.0%)であった。

イ 向こう一か月の降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.5%(2.6%)、発生圃場率は20.5%(32.7%)であった。

## 果樹共通

### 1. クワゴマダラヒトリ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

平成21年9~10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内13か所の平均発生程度は1.0であった(平成17~20年の平均:0.95)。

発生程度 極多:5、多:4、中:3、少:2、極少:1、無:0

## 茶

### 1. カンザワハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は1.1%(1.2%)、発生圃場率は31.3%(28.1%)であった。

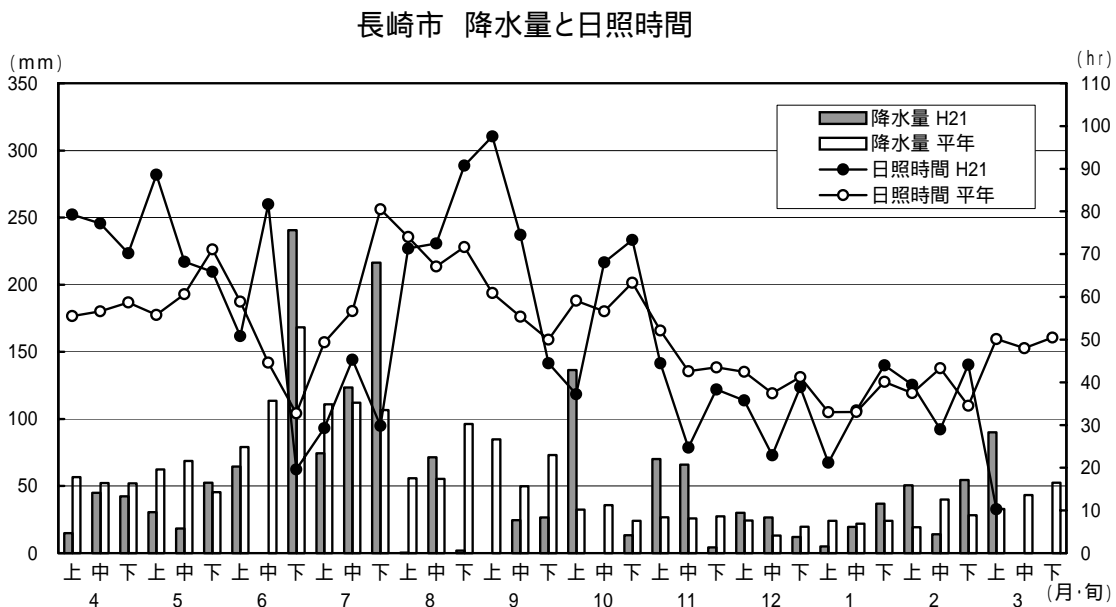
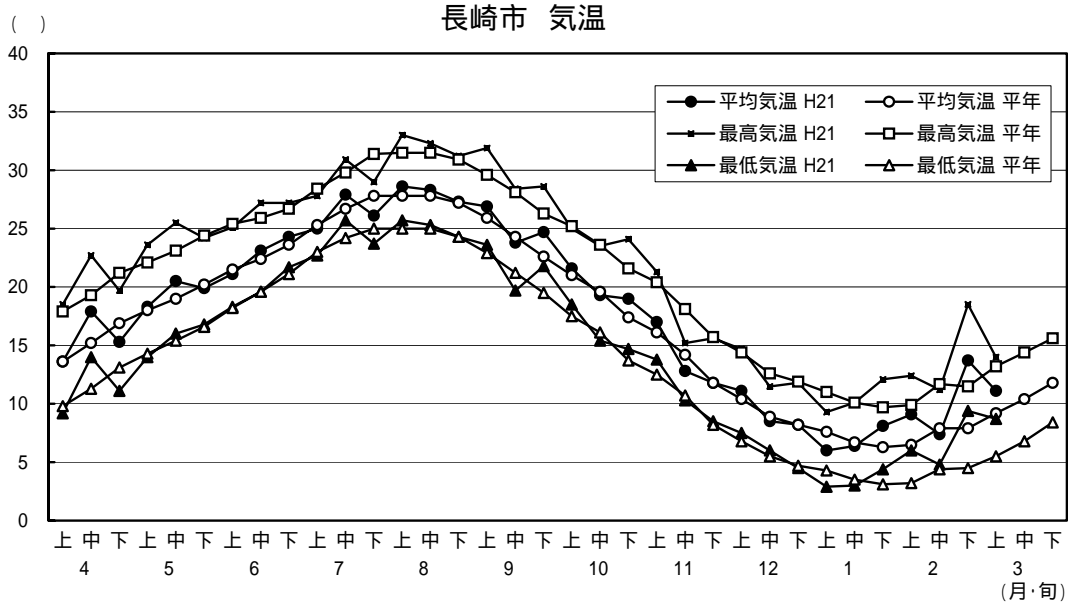
【参考】

気象 (平成22年3月12日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域  
平成21年度の気象経過



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027